

GO FLY

新北島中学校
学年通信 No33
2020.06.30. 発行



いよいよ近畿地方も梅雨の季節となりました。地理でも学んだように、日本は世界の気候区分からいいうと温暖湿潤気候になります。もうこの時点ではわかると思いますが、「湿潤」ということばにあるように日本は雨の多い国です。同じ温帯でも地中海の周りでは、年間の晴天日数が300日を超えるところがあるといわれています。調べてみたら、トルコのアランヤというところでは300日、スペインのコスタデルソルは325日の晴天の日があるとわかりました。日本の場合、いちばん晴天日数が多い香川県でも249日(日本平均は216日)ですから、大きなちがいがあります。日本の場合は100日以上が雨ということで、1年のうち1/3が雨ということになります。

Y ; よく降りますね。

編 ; ホンマや。毎日ジメジメするし、外で活動もでけへんし・・・こまったもんや。

Y ; 編集長！ひょっとして「雨男」とちゃいますか？ 何かしようとしたり現れたりするだけで雨が降る、あの疫病神のような存在！

編 ; たしかに、人によっては自分のことを雨男と思い込んでいる人も多いようやな！しかし、疫病神とは言い過ぎや。雨は植物が育つためには必要なもの。とくに日本では、梅雨どきの雨が稻作にとってたいへん重要なものになる。恵みの雨でもあるのじや。

そういうキミこそ雨男やないのか？

Y ; いいえ、とんでもない。編集長を差し置いて「雨男」やなんて、めっそうもありません。でも、自分のことを晴れ男と思い込んでいる人もいますよ。もちろん、なんとも思っていない人がいちばん多いと思いますが・・・

ところで、このまえいっしょに出かけたときにも雨が降ったじゃないですか。

編 ; あれは、キミが雨男やから・・・

まあ、晴れの日よりも雨の日の方が、しっかり印象に残ってしまうということはあるな。実際のところ、「この前も雨が降った」という印象がキミの頭にのこつるではないか。「大切な日に雨が降ってさんざんだった」などという、マイナスのできごとが起こると、強く印象に残り、雨の日の印象がどんどん蓄積していく。雨の日のインパクトが強く、晴れの日の印象が薄められてしまうのじや。

Y ; 周りの人はみんな、「編集長は雨男や」って言っていますよ。

編 ; 周りの人から「あいつがくると雨が降る」といわれることも大きな原因。科学的な根拠は何もないのに、このことばがボディブローのように効いてくるのじや。周囲の人の影響力はことのほか強く、何かいわれると簡単に雨男を受け入れてしまう。そして、「自分で自分のことを雨男だと思ってしまうこと」が、雨男が雨男であることの最後のとどめでもあるのじや。ここまでいくと、多少晴れの日が続いたとしても「たまたま晴れだった」ということになり、ついには「雨男」の完成となる。

Y ; よう研究してはりますね！ さすが「雨男」や。